

小津安二郎 映画監督。ナンセンス映画で地位築き、庶民の哀感を描いて絶頂期、「小津調」を確立して国際的な評価。

おづやすじろう

日比谷公園・1903 = 深川生れの江戸っ子。生家は三重に本家のあった「湯浅屋」という肥料問屋で、父は東京店の支配人。

日露戦争終・1905 = 2歳：

韓国併合・・1910 = 7歳：東京市立深川区明治尋常小学校に入学。

明治天皇没・1912 = 9歳：

大正政変・・1913 = 10歳：父の故郷三重県松阪に移住、町立第二尋常小学校に転入。

民本主義・・1916 = 13歳：卒業し、県立宇治山田中学校に入学、寄宿舎に入る。

ロシア革命・1917 = 14歳：アメリカ映画に感激、以後とりつかれ、もっぱら名古屋まで汽車で映画を見に通う。

大暴落・・・1920 = 17歳：「稚児事件」で停学処分、寄宿舎追放。自宅通いを良いことにますます映画にうちこむ。

原敬首相暗殺1921 = 18歳：中学校を卒業、神戸高等商業学校の受験に失敗し、

水平社結成・1922 = 19歳：小学校の代用教員となるが、再び一家が東京深川に住むことになり、

関東大震災・1923 = 20歳：職を辞して上京、松竹蒲田撮影所に助手として入社。この年のアメリカ映画がのちのストーリーに影響。

護憲三派圧勝1924 = 21歳：志願兵として近衛歩兵第四連隊に入隊。

治安維持法・1925 = 22歳：伍長で除隊。

円本時代始・1926 = 23歳：大久保忠素の助監督となり、仲間と鎌田に家を借りて生活。

金融恐慌・・1927 = 24歳：終生のコンビとなる野田高梧の脚本で「懺悔の刃」で監督となるが、完成間際に召集され、入隊。

共産党事件・1928 = 25歳：*斎藤寅二郎らとハリウッド喜劇流のギャグを連発、B級ナンセンス映画の監督として地位を築く。

世界恐慌・・1929 = 26歳：大学卒業者の就職難深刻化で、「大学は出たけれど」が共感をよぶ。

海軍軍縮条約1930 = 27歳：E.ルビッチをはじめとするアメリカの作家たちへの偏愛が「その夜の妻」や

満州事変・・1931 = 28歳：「東京の合唱」、同世代の俳優斎藤寅二郎や岡田時彦を得て野心作「美人哀愁」を発表、カメラの茂原英雄とともに独自の映像を確立。

五一五事件・1932 = 29歳：「生れてはみたけれど」などのサラリーマン生活の悲哀を描いた作品で高く評価される。アメリカ作家も「非常線の女」のごとき無国籍的犯罪映画の佳作も生んだ。

国際連盟脱退1933 = 30歳：坂本武を主演に迎えた「出来ごころ」の成功で、庶民的な哀感の世界を描いた「喜八物」に転じ、

帝人疑獄事件1934 = 31歳：父が死去。*「浮草物語」が3年連続キネマ旬報1位となり、絶頂期となった。

芥川直木賞始1935 = 32歳：「東京の宿」を発表。茂原英雄によるトーキー技術の開発を待ってサイレントを撮り続け、

二二六事件・1936 = 33歳：初めてのトーキー「一人息子」を撮る。

日中戦争始・1937 = 34歳：陸軍歩兵伍長として応召、中国へ赴く。

健保+総動員1938 = 35歳：軍曹となる。

第二次大戦始1939 = 36歳：中国から帰還、召集解除。

日米開戦・・1941 = 38歳：大船の新撮影所で、新たなカメラマン厚田雄春とともに「戸田家の兄妹」や、

・・・・・1942 = 39歳：*「父ありき」で「小津調」を確立。

創価学会検挙1943 = 40歳：陸軍報道部映画班員として南方へ従軍。シンガポールに滞在、押収されていたアメリカ映画を見る。

敗戦・・・1945 = 42歳：敗戦となり、イギリス軍の監視の下捕虜生活。

新憲法公布・1946 = 43歳：帰国。母の疎開先千葉県の野田に復員。

新憲法施行・1947 = 44歳：戦後第一作「長屋紳士録」、

極東裁判決・1948 = 45歳：

三大事件・・1949 = 46歳：笠智衆と原節子とを主演に迎えた「晩春」で芸術祭文部大臣賞、毎日コンクール監督賞・脚本賞。

独立回復・・1951 = 48歳：「麦秋」でも芸術祭文部大臣賞、毎日コンクール作品賞。

メテ-事件・1952 = 49歳：母とともに鎌倉に転居。

TV放送始・・1953 = 50歳：「東京物語」でも芸術祭文部大臣賞、ロンドン映画祭サザランド賞。いずれも野田高梧との共同脚本。

なべ底不況・1957 = 54歳：

イタコラマ・1958 = 55歳：カラー時代に入ってから芸術祭文部大臣賞の「彼岸花」。紫綬褒章。

美智子妃・・1959 = 56歳：芸術院賞。映画の日特別功労者賞。

安保闘争・・1960 = 57歳：「秋日和」では物語性が極度に希薄となり純粋な抽象性に近づくが、同時にかつての大学生が会社重役や大学教授となって登場してナンセンス喜劇の味を回復する。技法的には、移動撮影やパン、フェードイン、フェードアウトなどを排し、低い固定画面に終始したが、その技法的単調さに見合った細部の多義的表情を大胆な省略法で描き、「間」による運動感覚の表現はメロドラマをきびしく排することになる。

タイタイ病始・1961 = 58歳：芸術選奨。「小早川家の秋」、

全国総合計画1962 = 59歳：母が死去。「遺作」となった「秋刀魚の味」。

TV宇宙中継始1963 = 60歳：*芸術院会員になった直後、異変を感じて癌の手術を受けるも、還暦の年の誕生日に正確に60で、没した。